

# 利尻島の鳥

小杉和樹

## はじめに

利尻島の鳥類については、従来からの調査・観察等により、日本国内では冬鳥とされているハギマシコ、ギンザンマシコが夏にも観察され、繁殖の可能性があることや、道内では渡来が局地的で暖かい地方に多いコシアカツバメの繁殖が確認されている等、比較的興味深い。

しかしながら現在のところ、冬期の記録や長期間に渡っての記録が十分でなく、1年を通しての鳥相はよく知られていない状態である。

そこで、従来からの報告等と、十分ではないが87年1月～12月までに私が行なった観察を整理し、利尻島の鳥類についてまとめてみた。

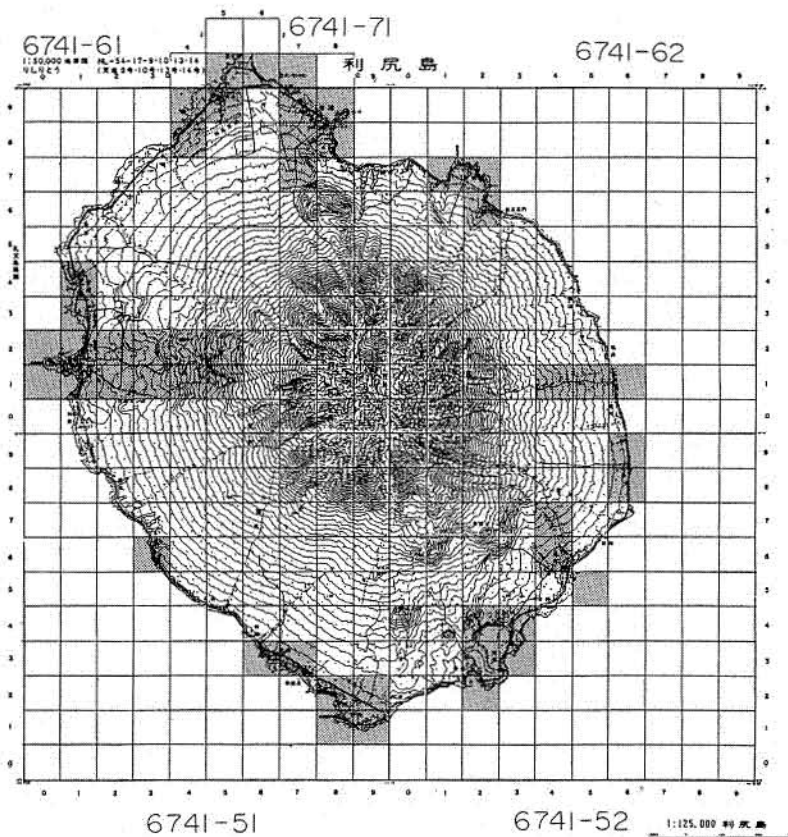


図1、利尻島概念図と主な観察地域 (■が観察地域)

( 国土地理院5万分の1「利尻島」を使用し、  
それに環境庁メッシュをかぶせた )

## 1. 従来の調査

これまでに多くの人が利尻島を訪れ、調査・観察を重ねているが、それらの中で代表的なものを記す。

・黒田長久（1965年6月）24科54種を観察

故中村幸雄氏（1952年）も観察したとされているシベリヤセンニュウの記録がある。

・故高野伸二（1965年7月）24科67種を観察

利尻島では、春の旅鳥として観察される、シロハラと夏には珍しいワタリガラスの記録がある。

・故中西悟堂（1965年8月）20科36種を観察

・東京農業大学第1高等学校（1965年6月）22科49種を観察

北海道では比較的稀な、ノジコ、イワヒバリの記録がある

・早稲田大学生物同好会（1980年7月）28科78種を観察

ハギマシコの幻鳥を鴛泊登山道（標高1500m）で記録がある。

## 2. 観察地域と鳥類相の概要

観察は海上、海岸、平野部、湖沼（湿地を含む）、山林部に一定のポイントを設けて行った（図1参照）。但し、海上については利尻～稚内間フェリーの上からの観察も乗船することで行った。又、山林部については見返台園地（標高500m）より下の地域が主である。

### ① 海上

夏はウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウ、ヒメウが多く観察される。冬では、海ガモ類を中心に大形カモメ類、ウミスズメ科、アビ科、カイツブリ科の種が観察される。海ガモ類ではシノリガモ、ウミアイサが多く、コオリガモ、クロガモは数も少なく観察される地域も限定され、クロガモについては二ツ石で30羽前後が観察されるだけである。ウミスズメ科では、ハシブトウミガラスが鴛泊港内で普通に観察され、ウミガラスが行動を共にしていることが多い。

渡りの時期には、ミズナギドリ科の3種やアカエリヒレアシシギの北上する大群や、数は少ないがアジサシ類、小形カモメ類（ユリカモメ、カモメ、ミツユビカモメ）が観察される。

### ② 海岸

夏は、海上で観察される種とハクセキレイ、キセキレイ、イソヒヨドリが観察され、冬になると大形カモメ類やウ科だけになり、ポンモシリに渡来するオジロワシの一つがいが目を引く。

渡りの時期には、シギ、チドリ科の種が波打ち際の岩礁で餌をとっている姿が目につくが、個体数は少なくそのほとんどが若鳥である。又、タヒバリの群れも海草の打ちあげられた岸辺に少数（10～15羽）の群れで観察される。

③ 平野部

夏は1番鳥相の豊富な環境域になり、ヒタキ科、アトリ科を中心にヒバリ科、ホオジロ科、モズ科の種が観察され、ノビタキ、ノゴマ、シマセンニュウ等は道路脇や民家横でさえづりがよく聞かれる。上空では、アマツバメ、ハリオアマツバメの飛ぶのが観察される。しかし、冬になると夏のにぎわいと一転してスズメとカラス（ハシブト、ハシボリ、ワタリ）だけになってしまう。

渡りの時期には、ツグミ、ジョウビタキ、オオマシコ、メジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロといった種が渡来し、初冬にはベニヒワやツメナガホオジロも観察される。

④ 湖 沼

夏に、水面に観察できるのはオシドリだけで、回りの湿地や岸辺にキセキレイ、アオサギが観察される。冬は湖面が結氷し、鳥類を観察することはない。

渡りの時期にはガン、カモ科、シギ科、サギ科が主で、これらもやはり個体数は少なく一種あたり2～3羽である。又、ハジロクロハラアジサシが独特の飛翔で餌をとっているのも観察される。

⑤ 山 林 部

夏は、ヒタキ科中森林性の種を中心にホトトギス科、ハト科や、ミソサザイが多く、それらと、留鳥であるキツツキ科、シジュウカラ科、ゴジュウカラ科、エナガ科、キバシリ科が観察され、平野部に次いで鳥相は豊富である。

山林部は、前述したようにハギマシコ、ギンザンマシコの夏期の観察例があり他にもイスカが6月中旬に幻鳥の混じった40～50羽程の群となって観察されたり、従来冬鳥とされているマヒワが夏期だけ観察される等、興味深い地域でもある。

環境的な区分で、一応このように整理してみたが、淡水ガモのコガモ、カルガモ、オナガガモ、マガモやアオサギ等が海岸で採餌していることや、オオハクチョウの若鳥が海上で羽を休めていた（悪天候によるものか？）こと等の観察例もあり、実際はもっと複雑である。

3. 観察された鳥類の特徴

87年1月～12月までに観察したものは37科141種あり、既に報告又は記録された18科40種をあわせると42科181種となった。表1は科種数だけを単純に比較したものであるが、同じ日本海に浮かぶ離島である天売島とはほとんど変わらなく、旅鳥とされるものについては共通種が多く今後渡りの経路等を考える際に参考になると考えられる。又、宗谷、留萌地域と比較してみると、これも共通種がほとんどで、グンカンドリ科、コウノトリ科、トキ科、ライチョウ科、キジ科、ツル科、ク

北 海 道	宗 谷 ・ 留 萌 地 域	天 売 島	利 尻 島
59 科 390 種	51 科 257 種	43 科 170 種	42 科 182 種

表1. 観察された種数の比較

イナ科、セイタカシギ科、カワセミ科、が利尻島では観察例がないだけに、科種数は少なくなっている。

表2は、利尻島における観察例を基本に5つのタイプに分類し、その割合をみたものである。

暖かい地方で越冬し、夏期に利尻島に渡来しているタイプの夏鳥が41%と多く、これらのほとんどが利尻島で繁殖をする種で、利尻島が繁殖期の諸条件に恵まれた地域であることを推察させる。

分類	数(種)	割合(%)
夏鳥	74	41
冬鳥	20	11
留鳥	25	14
旅鳥	56	31
迷鳥	6	3
計	181	100

表2. 利尻島の鳥類割合-1

分類	数(種)	割合(%)
水鳥	49	27
陸鳥	132	73
計	181	100

表3. 利尻島の鳥類割合-2

現に6月中旬に石崎野鳥の森では、餌をねだる雛鳥たちの鳴き声が物凄い音量となって森中に溢れている。

しかし、これは陸鳥に限ったことのように、水鳥(海鳥を除く)に関しては、繁殖の可能性があるものはオシドリ、カイツブリ、(早稲田大学生物同好会1975年の調査時1羽を観察)だけで、姫沼、オタマリ沼の条件では難しいようである。但し、湖沼地帯でのカモ類(種は不明)繁殖の報告(斉藤晴雄1974)があり、今後の十分な調査が必要である。

又、北海道本島には普通に観察されるオオジュリン、シマアオジが、少数しか観察されないこと等も興味深い。

夏鳥に次いで多いのが渡り途中に渡来する旅鳥で、迷鳥も含めると34%となり、利尻島も渡りの中継地又は休息地であるといえる。旅鳥については、ガン、カモ科、シギ科がもっとも多く、秋に観察例が多いが春は比較的少ない。更に、道内では冬鳥とされているレンジャク2種、アトリ、オオマシコ、ツグミ等は旅鳥として観察されるが、今冬のようにツグミが越冬する(暖冬のせいかな?)等、状況によって変化することもあるようである。しかし、利尻島で越冬する冬鳥11%のほとんどが海鳥であることや、1年中観察される留鳥14%はカラ類、キツツキ科を中心とする森林性の種とスズメ、カラス2種であることからして、冬の気候が厳しく越冬域には向いていないことは十分考えられる。

この他、迷鳥とされる種が6種あるが、このうちベニバト、ホシムクドリは日本においても観察例が少なくルリガラは国内初の観察となり、直ちに利尻島の鳥類の特徴とすることはできないが、特記すべき鳥類として表4のように整理した。又、この3種以外のサンショウクイ、オオハクチョウ、コ

	ルリガラ	ベニバト	ホシムクドリ
観察月日	'87. 11. 8	'87. 11. 11	'87. 3. 28-29
観察場所	オタマリ沼湖畔	見返台車道線(標高 140M)	仙法志ゴミ投棄場
観察状況	湖畔遊歩脇の柳の木にとまるのをコアカゲラと共に観察。アシの茎にもとまる。	道路脇で餌をとっているのを観察。側にカケスがいた。1分もたたないうちに飛び去る。	ムクドリ群中に冬羽のものを1羽観察。

表4. 特記すべき鳥類の記録

シジロウミツバメについても利尻島においては極めて稀れな種であり、特にコジロウミツバメは早稲田大学生物同好会1980年、7調査時に観察されたもので日本海北部の記録はこれだけと思われる。

#### 4. まとめ

利尻島の鳥相の特徴は、夏鳥、旅鳥の占める割合が8割弱と多いことがあげられる。これは北海道本島と同様であり、利尻島ではより一層顕著である。又、猛禽類の少ないのも特徴としてあげられる。現在までに観察された種はトビ、オジロウシ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサの5種で、このうち長期に渡って観察されるのはハヤブサとオジロウシの2種だけであり、2種とも個体数は1つがい程度と思われる。

この他、道北地域に繁殖例がないとされているツバメが、以前（年不詳）利尻島で普通に繁殖していたと言われており、利尻島の鳥相がより一層興味深いものであることを考えさせられる。

最後に、87年中に行なった観察が利尻島全域としながら、山岳部の調査が著しく少ないことや、海上の観察域が利尻～稚内間の航路だけであること等、問題点が多く、今後十分な検討を加えて観察を続けたい。

小杉和樹 日本野鳥の会道北支部会員

#### 参考文献

- 寺沢孝毅 1986:「天売島の鳥」  
中西悟堂 1966:「火の島利尻・花の島礼文」野鳥236号  
東京農業大学第一高等学校 1966:「利尻島動植物調査の記録」  
早稲田大学生物同好会 1980:「利尻島の動植物」早稲田生物22  
高野伸二 1982:「フィールドガイド日本の野鳥」  
高野伸二 1984:「野鳥識別ハンドブック」  
野生生物情報センター 1985:「きたの鳥たち」  
斉藤晴雄 1974:「宗谷地方の野鳥」(最北の秘境国立公園利尻礼文サロベツ所収)

## 利尻島月別観察鳥類リスト ('87年)

科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	摘要	
アビ	オオハム	○	○	○	○								○	W 1	
カイツブリ	カイツブリ											○		M 3	
	ハジロカイツブリ											○		M 2	
	ミミカイツブリ	○	○	○	○								○	W 1	
	アカエリカイツブリ	○	○	○	○								○	W 1	
ミズナギドリ	ハシボソミズナギドリ				○	○	○							M 1	
ウ	ウミウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1	
	ヒメウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1	
サギ	アマサギ									○				M 2	
	コサギ									○				M 2	
	アオサギ								○	○	○			S 1	
ガンカモ	オオハクチョウ											○		A 3	
	オシドリ				○		○							S 2	
	マガモ										○	○		M 2	
	カルガモ										○	○		M 2	
	コガモ									○	○	○		M 2	
	ヒドリガモ										○			M 2	
	オナガガモ										○	○		M 2	
	ホシハジロ				○							○		M 2	
	キンクロハジロ										○	○		M 2	
	スズガモ										○	○		M 2	
	クロガモ	○	○	○									○	W 2	
	ビロードキンクロ		○											W 3	
	シノリガモ	○	○	○	○	○					○	○	○	○	W 1
	コオリガモ	○	○	○	○								○	W 2	
	ホオジロガモ			○							○	○	○	W 2	
	ウミアイサ	○	○	○	○	○					○	○	○	W 1	
	カワアイサ											○		M 2	
ワシタカ	トビ			○						○	○			S 2	
	オジロワシ	○	○	○									○	W 2	
チドリ	シロチドリ				○									M 2	
	メダイチドリ									○	○			M 2	
	ムナグロ									○	○			M 2	
シギ	トウネン									○	○			M 2	
	ハマシギ									○				M 2	
	コオバシギ									○				M 2	
	オバシギ									○				M 2	
	クサシギ										○			M 2	
	タカブシギ									○	○			M 1	
	キアシシギ									○	○	○		M 1	

科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	摘要	
シギ	イソシギ								○	○				M 2	
	ソリハシシギ								○	○				M 2	
	オオジシギ					○	○	○						S 1	
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ					○								M 1	
カモメ	ユリカモメ									○	○			M 2	
	セグロカモメ	○	○	○	○	○						○	○	W 1	
	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1	
	ワシカモメ	○	○	○	○	○							○	W 1	
	シロカモメ	○	○	○	○	○							○	W 1	
	カモメ	○											○	M 2	
	ウミネコ			○	○	○	○	○	○	○	○				S 1
	ハジロクロハラアジサシ					○				○					M 3
	コアジサシ									○					M 2
	ウミスズメ	ウミガラス	○	○	○									○	R 1
ハシブトウミガラス		○	○	○									○	W 1	
ケイマフリ				○										R 1	
アダラウミスズメ			○	○									○	W 2	
ウミスズメ		○	○	○									○	○	W 2
エトロフウミスズメ			○												W 3
コウミスズメ		○	○	○										○	W 2
ウトウ		○	○	○	○										R 1
ハト	ベニバト												○	A 5	
	キジバト				○	○	○	○	○	○	○				S 1
	アオバト								○						S 2
ホトトギス	カッコウ					○	○	○	○	○					S 1
	ツツドリ					○	○	○	○	○					S 1
	ホトドギス						○								S 3
アマツバメ	ハリオアマツバメ							○	○						S 2
	アマツバメ					○	○	○	○	○					S 1
ヤツガシラ	ヤツガシラ				○									M 2	
キツツキ	アリスイ					○	○	○	○						S 1
	ヤマゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		R 2
	アカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		R 1
	コアカゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		R 2
	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		R 1
ヒバリ	ヒバリ			○	○	○	○	○	○	○				S 1	
ツバメ	ツバメ									○					M 1
	コシアカツバメ					○									S 2
	イワツバメ					○	○	○	○	○					S 1
セキレイ	キセキレイ			○	○	○	○	○	○	○					S 1
	ハクセキレイ			○	○	○	○	○	○	○					S 1

科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	摘要
セキレイ	ビンズイ					○	○	○	○	○				S 1
	タヒバリ										○			M 1
サンショウクイ	サンショウクイ					○								A 4
ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
モズ	モズ					○	○	○	○	○				R 1
レンジャク	キレンジャク											○		M 1
	ヒレンジャク											○		M 1
ミソサザイ	ミソサザイ				○	○	○	○	○	○	○			S 1
ヒタキ	コマドリ					○	○	○	○	○				S 1
	ノゴマ					○	○	○	○	○				S 1
	ルリビタキ				○	○	○	○	○	○				S 1
	ジョウビタキ				○									M 1
	ノビタキ				○	○	○	○	○	○				S 1
	イソヒヨドリ					○	○	○	○	○				S 1
	トラツグミ				○	○	○	○	○					S 1
	アカハラ					○	○							S 1
	シロハラ				○									M 1
	ツグミ				○						○	○	○	M 1
	ウグイス				○	○	○	○	○	○				S 1
	エゾセンニュウ						○	○	○	○				S 1
	シマセンニュウ						○	○	○	○				S 1
	コヨシキリ						○							S 1
	メボソムシクイ								○	○	○			S 1
	センダイムシクイ								○	○				S 1
	キビタキ					○	○							S 2
	サメビタキ						○	○	○	○				S 1
	コサメビタキ						○	○	○	○				S 1
エナガ	シマエナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
シジュウカラ	ハシブトガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	ヒガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	ルリガラ											○		A 5
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
キバシリ	キバシリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
メジロ	メジロ						○							M 2
ホオジロ	カシラダカ				○							○		M 1
	ミヤマホオジロ				○							○		M 1
	シマアオジ						○							S 2
	アオジ				○	○	○	○	○	○	○			S 1
	オオジュリン						○	○				○		S 2
アトリ	アトリ				○								M 1	



科名	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	摘要
アトリ	カワラヒワ				○	○	○	○	○	○	○	○		S 1
	マヒワ					○	○	○						S 2
	ベニヒワ	○	○		○									M 2
	オオマシコ				○									M 1
	ギンザンマシコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 2
	イスカ					○	○							M 2
	ベニマシコ				○	○	○	○	○	○	○	○		S 1
	ウソ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	シメ					○	○	○	○	○	○	○	○	S 1
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ					○	○	○						S 2
	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
ムクドリ	コムクドリ					○	○	○	○	○				S 1
	ホシムクドリ			○										A 4
	ムクドリ			○	○									S 1
カラス	ミヤマカケス	○	○	○								○	○	W 2
	ホシガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 2
	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	R 1
	ワタリガラス	○	○	○									○	W 2
37科	141種													

観察方法等

観察は、双眼鏡（9倍）、フィールドスコープ（20～40倍）を用い、その種と断定できる場合のみ「さえずり」も確認の手段とした。又、観察日や観察地域は私の都合で、間隔が開き過ぎたり、偏っていたりとリスト中疑問な点があると思われるが、あくまでも観察を基本にまとめたものである。リスト中摘要欄の記号は下記のとおり。

このリストは、従来の調査報告及び個人的な観察をされている方々からの情報をまとめたものであり、脱落しているものもあると思われるが、それらについては、資料・情報の収集を積極的に進め今後の機会に追求したい。

R	留鳥	1	普通
S	夏鳥	2	少ない
W	冬鳥	3	利尻島では稀れ
M	旅鳥	4	北海道では稀れ
A	迷鳥	5	日本でも稀れ

## 利尻島で既に観察されている鳥類リスト

科名	種名	観察月	摘要
ミズナギドリ	フルマカモメ	7	早大生物同好会 (1979) 高野 (1965)
	アカアシミズナギドリ	6・7・8	早大生物同好会 (1979) 黒田・高野・中西 (1965)
	ハイロミズナギドリ	6・8	早大生物同好会 (1979) 黒田・中西 (1965)
ウミツバメ	コシジロウミツバメ	7	早大生物同好会 (1979)
サギ	ダイサギ	5	国安 (1987)
	チュウサギ	5	鴛泊で保護されたが翌日落鳥 (1983)
ワシタカ	ハイタカ	7	早大生物同好会 (1979)
	ノスリ	7	東農大第一高校高野 (1965)
ハヤブサ	ハヤブサ	7	高野 (1965) 山野井 (1987)
シギ	キョウジョシギ	7	早大生物同好会 (1979)
	ヤマシギ	7	早大生物同好会 (1979)
トウゾクカモメ	クロトウゾクカモメ	7.8	高野・中西 (1965)
カモメ	ミツユビカモメ	6.7	黒田・高野 (1965)
フクロウ	シロフクロウ	11	鬼脇で保護され釧路動物園収容 (1986)
	コノハズク	6	黒田 (1965)
ヨタカ	ヨタカ	6	東農大第一高校 (1965)
ブッポウソウ	ブッポウソウ	5	梅木 (年不詳)
キツツキ	クマゲラ	全期	下河原・安田他 (1987)
セキレイ	セグロセキレイ	6	東農大第一高校 (1965)
モズ	アカモズ	6	黒田・高野 (1965)
	オオモズ	5	安田 (1965)
イワヒバリ	イワヒバリ	6	東農大第一高校 (1965)
	カヤクグリ	6	高野・中西 (1965)
ヒタキ	コルリ	7	早大生物同好会 (1979)
	マミジロ	7	早大生物同好会 (1979)
	クロツグミ	6.7	黒田・高野 (1965)
	ヤブサメ	6	早大生物同好会 (1979) 黒田 (1965)
	マキノセンニュウ	7	高野 (1965)
	シベリアセンニュウ	6	黒田 (1965)
	オオヨシキリ	7	中西 (1965)
	エゾムシクイ	7	東農大第一高校 (1979) 黒田・高野 (1965)
	コメボソムシクイ	7	黒田・高野 (1965)
シジュウカラ	ヤマガラ	6	東農大第一高校 (1965)
ホオジロ	クロジ	7	高野 (1965)
	ノジコ	6	東農大第一高校 (1965)
	ホオジロ	6	東農大第一高校 (1965)
	ホオアカ	6.7	黒田・高野 (1965)
	ツメナガホオジロ	11	山野井 (1987)
アトリ	ハギマシコ	7	早大生物同好会 (1979)
イカル	イカル	6	黒田・中西 (1965)
19科	40種		

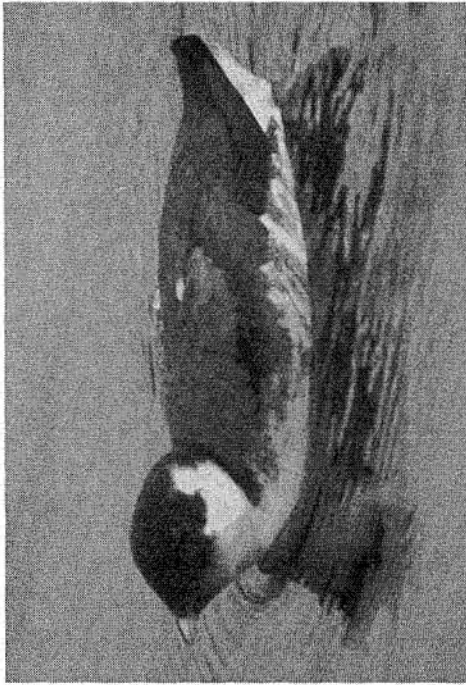


写真1 ウミスズメ 東利尻町本泊漁港 1987.11.7  
この時期、港内で餌をとっているのをよく観察した。

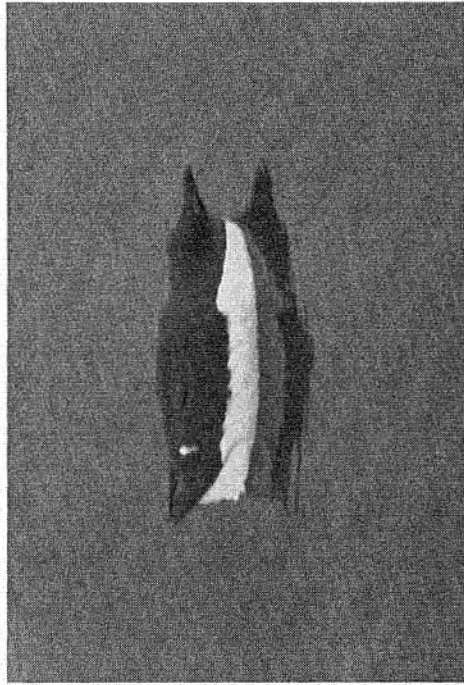


写真2 ハシブトウミガラス 東利尻町鷺泊港内 1987.2.8  
冬期はこのように首を縮め、のんびり浮いていることが多い

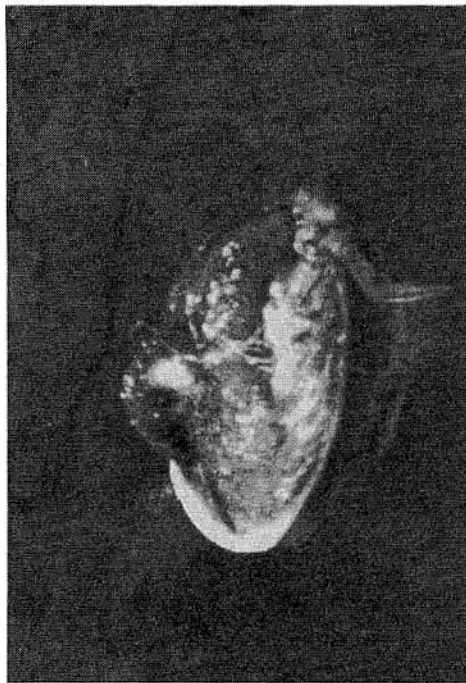


写真3 アカエリカイツブリ 東利尻町鷺泊港内 1987.2.8  
首にテグスがかままり、長い間それをとろうともがいていた

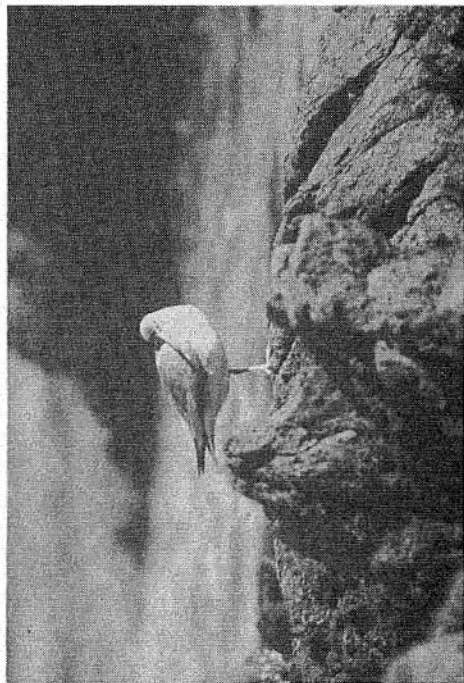


写真4 キアシシギ 東利尻町野塚海岸 1987.9.19  
利尻島には8月中旬から9月末まで、渡来するシギ類で最も多い

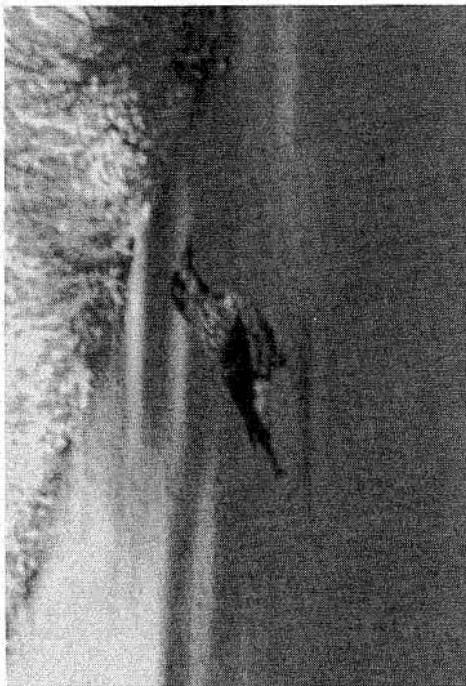


写真7 ホシガラス 峯形見返台園地 1982.10.10  
山登りをしていると、よく人の近くまで寄ってくることがある

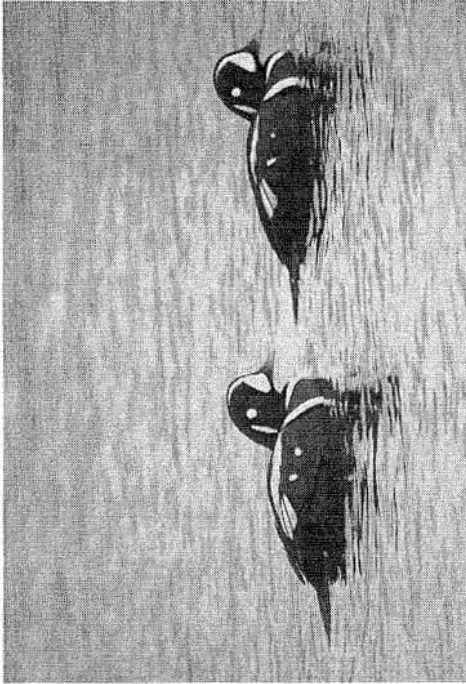


写真5 シノリガモ 東利尻町本泊漁港 1987.11.7  
冬の海鳥としてもっとも多く観ることができる



写真8 コオリガモ 東利尻町鯨泊港内 1988.2.14  
利尻島ではあまりみかけることではない

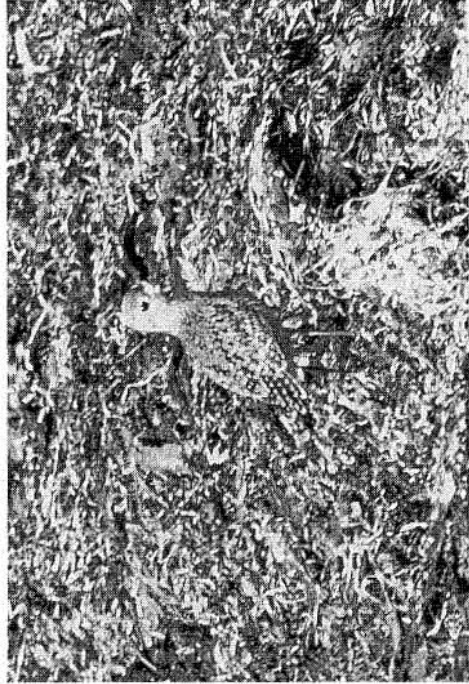


写真6 ムナグロ 東利尻町大機海岸 1987.9.19  
打ちあげられた海藻のところに多くみられる。海藻と同色なので見つけづらい